



広報 No. 325 1979. 2. 1

まくべつ

発行・幕別町役場 幕別町本町130番地 ☎(01555) 4-2111
編集・町民課広報広聴係 ☎内線111 印刷・ソーゴ印刷

お年寄りに朗報

3月

オープン

特別養護老人ホーム札内寮

●入所を受付中

町内初の特別養護老人ホームが3月1日、十勝愛育園隣りにオープンします。町では国民宿舎・幕別温泉ホテル周辺を福祉と保養の村とする構想で施策を進めています。特別養護老人ホームの完成により、この構想はまた一歩前進します。

全国でもあまり例のない
温泉のついた
老人ホーム

社会福祉法人・幕別真幸協会（角田政平理事長）では昨年九月から依田の十勝愛育園隣接地に特別養護老人ホーム札内寮を建設中でしたが、三月一日からオープンすることになりました。

真幸協会は昨年四月に法人認可となった組織ですが、老人福祉法による特別養護老人ホームの建設地として、幕別温泉地区に



心身の不自由なお年寄り50人が暮らすようになる老人ホーム

白羽の矢をたて、町にたいして請願していました。

幕別温泉地区は、昭和五十二年五月に国民保養温泉地に指定されたほか、町でもこの地区に老人福祉センターを建設し、福祉村とする構想を持っていたところから協力することになり、ホーム建設敷地を無償で提供、昨年九月から総工費二億三百二十九万円で工事に着手、予定より一か月早い三月一日からオープンすることになったものです。

老人ホーム札内寮の規模は、鉄筋コンクリート造り平屋建で、建物の面積は千三百

福祉は思いやりの心、社会的に弱い立場の人たちに温かい手をさしのべることです。福祉は町政の大きな柱です。その福祉施策の中からお年寄りの方を対象にしたものをまとめてみました。

●医療費 六十八歳以上の入すべてと六十五歳以上の寝たきりの人（条件あり）の医療費は無料になります。

また、六十五歳以上六十八歳未満でも次の条件にあてはまれば医療費が無料になります。①国民健康保険・健康保険、各種共済保険に加入している人②老人夫婦のみの世帯（一方が六十五歳以上で配偶者が六十歳以上）か、老人と児童（十八歳未満の子）の世帯、または単身（子がまったくいない）の独立世帯であること ③十八歳以上の子がいないこと（ただし次のどれかに該当する時は可）・ひとり暮らしの期間が6か月以上 ・他へ養子縁組している子並びに子が女子のみで全員嫁いでいる場合 ・子の中に一人でも重度心身障害者および長期療養者がいる場合 ・子が満二十歳未満の勤労者の場合 ・満二十歳現在、在学している学生と生徒は卒業するまで

●ホームヘルパー 老衰や心身のぐあいが悪くて日常生活に困っている、ひとり暮らしや、寝たきりのお年寄り、心身障害者の身の周りのお世話をするのがホームヘルパーです。

●幕別温泉ホテルの無料入浴券 ゆつくりお湯につかって、ますます元気な毎日をお過ごしくださいと、六十五歳以上のみなさんにさしあげています。

●温泉行きバスの運行 月二回、四路

●出席／川前正男さん(あかしや南二)

山崎長一さん(緑町二)

……(司会)町民課広報広聴係

司会 本日はお忙しいところをお集まりいただき、ありがとうございます。最近、「公区だより」の発行があちこちの公区で進められています。発行に直接携わっているみなさんの中から、あかしや南一公区の川前正男さんと、緑町二公区の山崎長一さんに、発行を通じて感じている苦労や公区だよりの効用をお話しいただきたいと思います。

まず初めに、公区だよりを発行するようになったきっかけからお聞かせください。

川前 私たちの住んでいる所は新しく出来た団地で、公区も生まれたばかりのようなものです。そこで、公区に住む人たちの連帯感、親睦を高めようと、「みんなから原稿を集めてなんでもいいから出そうや」っていうのが始まりでした。年に三回くらい出せばいい方だと、のんびりムードで第一号をまず、出しました。

山崎 緑町二公区の場合、目的は二つあります。一つには、よりよい町づくりは住民自身の実践活動から出発するというのを、公区活動の基本と考えています。自分たちでやれることは自分たちで、自分たちで出来ない仕事は行政といっしょにやってく——そう考えています。こうし

座 談 会

公区活動を みんなのものに それが公区だよりの目的です

公区だよりの発行がいくつかの公区で進められています。編集を担当しているお2人に、その効果やこれからの方向をお聞きしました。



た活動は残念ながら一般に、役員など一部の人たちだけのものに陥りやすいんです。そこで、住民活動を公区全体のものにするには、公区の出来事を細大もらさず知らせて、みんなに関心をもってもらおうと、公区だよりを出し始めました。

もう一つ、今までみんなで作ってきた活動がきちんと残せますから、将来の大切な資料にもなります。

回覧板よりも 速報性がはるかに高い

司会 どんな組織でもそうですが、まず知らせる、それが基本だと思うんです。発行してみてもの反応はどうですか。

川前 私たちの団地は留守がちな家庭が多いので、夜家に帰ってから読んでもらえば、町内会の出来事が細かなところまでわかるような町内会だよりを作りたいと思っています。

百四十戸を越えていますし、持ち家の人、公営住宅に入っている人などさまざまですから、公区の行事に参加する姿勢も違うようです。そこで公区の活動にみんなが参加できるように、「知らせる」ことから町内会

だよりをスタートさせ
たわけですね。
回覧板は
みんなに周
知するのに
時間がかか

りますが、一枚ずつ各戸に行き渡る町内会だよりと、速報性がありますね。

「公区の動きがかわって、とてもいいよ」って言ってくれた人が何人かいました。公区の図面も作ってみました。世帯主の名前だけでなく電話番号や家族の名前、この家には小学生がいる、中学生がいるという印もつけて——子供会の関係もあるものですから。

山崎 読んでもらっているかどうかは常に心配ですね。落とし物が届くとそれを記事にして載せるようにしていますが、公区だよりを配るとすぐ落とした人から連絡がある——そんな時は、意外に読まれてるんだと感じます(笑)。

司会 とところで、公区の運営のしかたはどんな方法をとられていますか。

山崎 昭和四十四年に公区の規約を作ったんですが、その時に活動委員を設けました。年度途中で行事を企画した時にそのつど総会に諮らなくても、毎月十日の役員・班長会議で確認すればいいようになっていきます。

班長(十班ある)の任期も元は役員と同じ一年だったんですが、今は三か月交替にしています。一年間に全部で四十人が班長を経験します。

班長をやった経験があると、やめた後でも公区活動に関心と積極的な協力をしてくれますね。

司会 一度苦労すると、知らん顔もできないということですか(笑)。

川前 私たちの公区はできて日が浅い



ですから、模索の状態ですね。とにかく顔と名前が早く一致するようにと、親睦を第一に行事を考えています。班の活動には、集めた公区費の中から助成金を出して自主的な親睦行事を公区として応援しています。

顔を知る、人を知る——これを合言葉に公区づくりを進めている最中です。昨年七月に団地内の公園で家族レクリエーションをやったんですが、その時の懇親会の席上で一班と二班が班対抗のソフトボールをやるうと活動が進展しました。お互いに顔も名前もわかってくると、公区のムードはなごやかになりますね。

子供たちも 公区の一員として活躍

司会 再び公区だよりの話にもどらせていただきますが、お二人の経験から、これから発行を始めようとする公区へのアドバイスがありましたらお聞かせください。

山崎 昨年から公区だよりの用紙の大きさを覚えてみました。それまではB四判（西洋紙大）だったのを半分のB五判にしたんです。これですと、いっぺんにたくさん原稿を用意しなくて、手軽に発行できます。

以前は三か月に二回位の発行で行事の結果

報告が主でしたが、現在は月に六七回出しています。内容も、これからやる行事の案内を大事にして編集しています。

昨年の六月から十月まで、健康づくりと子供の非行防止を目的に早朝ラジオ体操をやりました。その時に集まった子供たちが、公区だよりを手分けして配ってくれました。これは早いですよ。班長さんが留守の場合など全戸に行き渡るのに三日はかかりますから。子供たちに手伝ってもらうと、前日に印刷したものが、翌日には確実に全部の家庭に届いています。

司会 子供たちも公区の一員として活躍してるんですね。

山崎 そうですね。書く方はいへんですが（笑）、みんなが読んでくれるものを作るのは楽しいですよ。

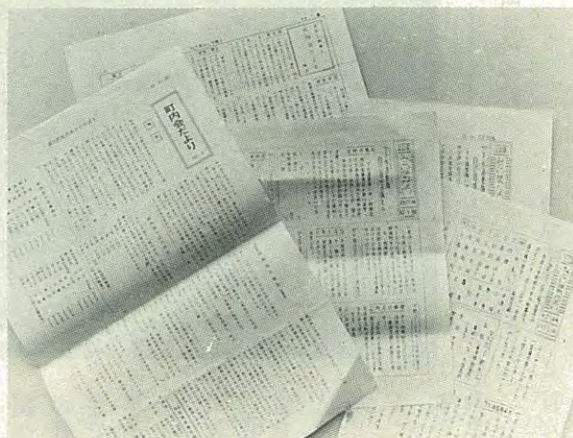
上手下手は別にして（笑）、今のところ早く出すことをモットーにしています。夜のうちに原稿を書いておいて、会社で昼休みにガリ版に向かうんです。

川前 僕は先に原稿を作っておかないで、ガリ版に向かいながら文章を考えるから時間がかかる……（笑）。第二号まではタイプ印刷でしたが後はガリ版刷りです。タイプよりも手書きの方が親しみがあるという声も聞きますし。

公区だよりが、もっとたくさん公区で発行されるようになって、それを交換しあえば、それぞれの活動にプラスになるでしょうね。公区同

士の交流にまで発展させたいというのが、私の理想です。

山崎 まず第一号を作ってみることでしようね。あちこちで発行を始めようとの動きはあるんですが、なかなかふんぎりがつかないようです。あまり難しく考えずに第一号を出してみることです。それから少しずつ良いものにしていく努力をすればいいんですから。



公区だよりの果たしている役割りは大きい

情報を選んで 身近なものは再PR

司会 最後に、これからはこうした点にも力を入れて公区だよりを作ってみたい、という目標をお話しくださいますせんか。

山崎 役場から「おしらせ」が配られ



冬の遭難防止
気象・装備にくれぐれも注意を

ていますが、忘れてしまいうつてことも多いですよ。重複するんですが公区だよりにも「結核検診はいつどこであります」と書いておけば、ウツカリがいくら少なくなると思います。そんなこともやっていきたいですね。

川前 いろいろな所からすぐたくさん情報家庭に届けられる時代ですから、その中から自分にとって必要な事柄を選んで読むというのは、たいへんなことですね。山崎さんが言われたように、自分たちの公区に関係のあることをもう一度、町内会だよりで載せる方法は、いいですね。

司会 公区だよりの発行に技術的な面も含めて、役場の広報担当としてもできる限りの応援をしていきたいと思っています。本日はお忙しい中をお集まりいただき、貴重なご意見をお聞かせくださいまして、たいへんありがたうございました。

幕別消防署では昨年一年間の火災発生状況と救急業務の統計をまとめました。これによりますと火災発生件数は前年より一件少ないものの損害額は大幅に増加また救急車は二日に一件の割合で出動していることがわかりました。

救急出動、2日に1件

●幕別消防署
(昨年1年間の統計から)

●火災発生状況

昭和五十三年一月から十二月までの一年間に発生した火災は、前年より一件少ない八件(罹災世帯六、罹災者十八人)。内訳は住宅五、工場、事務所、風呂場の各一で、住宅火災で二人が焼死しています。

出火の原因は、マッチの不始末(住宅)、ガスコンロの消し忘れ(住宅)、残り火の不始末(風呂場)、ストーブの取り扱いミス(事務室)、眼鏡石の不安全(住宅)、タバコの不始末(住宅)で住宅および工場の各一は不明とな

っています。
このように、前年より件数で一件少なく、延焼失面積も半分以下の七百二十三平方メートル(前年は千六百五十三平方メートル)となっていますが、損害額は四千二百四十万八千円(前年は二千八百一十七万七千円)と大幅に増加しています。



三件、八月二件、四月、六月、十二月各一件。
●救急業務
昨年一年間に救急車の出動要請があったのは百八十五件、うち十二件は傷病の程度が軽く救急業務の対象とはならず実際に医療機関へ急したのは百六十二件でした(前年比・二十七件増)。

この百六十二件の救急出動で百八十六人(男百四十四人、女七十二人)が救急病院へ。町民百

七人に一人の割合で救急車に乗ったことになりました。

救急車で搬送した百六十二件を事故別にみると、最も多かったのは急病の六十六件(男三十五人、女三十一人)、以下交通事故の三十七件(男二十九人、女十二人)一般負傷二十四件(男十七人、女七人)、労働災害二十一件(男二十人、女一人)が主なものですがこのうち、死亡者は交通事故二人労働災害一人、急病二人、一般負傷一人の計七人。重傷者は五十五人となっています。

新年度予算編成中 実績にこだわらず、重点主義

昭和五十四年度の予算編成は、町の総合計画の目標である“生活と生産の調和”する地域社会の建

○生活福祉の充実(あたたかい町づくり)
○産業の振興(豊かな町づくり)

出来ませんので、経費は出来るだけ節約し、総体的には、今までの実績にこだわらず、重点主義の予算を編成する方針です。

なお、昭和五十四年度の一般財源については、大きな伸びは期待出来ませんので、経費は出来るだけ節約し、総体的には、今までの実績にこだわらず、重点主義の予算を編成する方針です。

三十八件発生し 三人が死亡

町内の交通事故
昭和53年

昨年一月から十一月までに町内で発生した交通事故は三十八件、この事故で三名が死亡し、七十一名が負傷しましたが、交通事故の内容は観光型の事故が多く発生しているのが特徴となっています。

町内で発生した交通事故を月別にみると、最も多く発生したのは十一月の八件、次いで十月・七月の六件、八月五件、五月・九月三件の順。他は二月と六月を除き二件の発生となっています。

二月は一件の事故もなく傷者もゼロ、六月は一件の発生で一人の負傷。

この事故で負傷した方は、やはり十一月が最も多く十三人、以下八月十二人、七月・十月十人、四月七人、九月六人の順。ところが、四月は発生二件で七人が、八月は五件の事故で十二人、九月は三件の事故で六人が負傷しており、これは、特に観光シーズンに多くなっています。

労務診断の おすすめ

意志の疎通、経営にたいする信頼感がわかります

の事業所で、診断料は無料。診断を受けた事業所は、十勝支庁商工労働課に申し出てください。

なお、労務診断をおこないますと次のような効果があります。

《意思の疎通》 経営者と従業員との意思の疎通は、人間関係の安定に欠かすことが出来ません。この診断は意思の疎通手段として極めて有効です。

《経営にたいする信頼感》 経営のあり方について従業員の意見を聞き改善しようとするものから、実施すること自体が従業員の経営にたいする信頼感を増します。

《不平不満のはけ口》 従業員に不平不満がありますと、労使紛争の原因ともなります。この診断は不平不満をやわらげる効果をもっています。

保護司が 増員されました

幕別町管内の保護司が、このほど増員され、それぞれ更生保護のため努力しています。十二名の名前は次の通りです。

前田秀一（豊町） 林照男（寿町） 吉田正公（提町） 橋本喜作（依田） 吉村康一（北町） 梅田敏雄（あかしや） 木田岩松（豊岡） 芝木梅（宝町） 乙武善正（南町） 岸上喜之助（古舞） 角常久（棟内） 古海公哉（猿別）

第九回全町スピードスケート選手権大会

二百七十人が力走

第九回全町スピードスケート選手権大会は一月二十日、午前九時から町営リンクで行われました。参加選手は二百七十人、寒気の中を全員が力走しました。総合優勝者は次の通りです。

●小学生 ▽一年男子・佐藤勝博（駒島） 同女子・山田幹恵（棟内） ▽二年男子・勝見了（棟内） 同女子・岡村美穂子（幕別） ▽三年男子・岡田仁志（札内南） 同女子・岩井衣子（幕別） ▽四年男子・佐藤徳之（駒島） 同女子・佐藤みゆき（幕別） ▽五年男子・清水康哉（白人） 同女子・佐藤恵美（白人） ▽六年男子・横山裕二（中里） 同女子・山根由美（幕別）

写真はスタートの瞬間、緊張した選手たちの顔

冬の健康にスケートを
町営リンクは夜八時まで使えます。照明設備が整っていますので安心して滑ることができます。とかく冬は運動不足になりがち。スケートは北国の手軽なスポーツです。



スリップ事故に 注意しましょう

道路交通法の一部改正などで全道の交通事故は僅かに減少、死者は大巾に減りましたが、今年に入って、また増加の傾向にあるところから、道では「第二期・冬の交通安全総ぐるみ運動」を、二月一日から十日まで、全道一斉に展開することになりました。

雪がなかった幕別にも雪が降り道路はスリップしやすい状態となっています。スピードはひかえ目とし、車間距離は十分にとつて、安全運転に心がけましょう。



冬道での事故防止——急操作はやめよう

町内から二人 特別賞を受賞

全道読書感想文コンクールで、幕別

小学校六年生の井上敬子さんが特別賞

に入賞した話題は先月号でお知らせしました。今度は第六回全道中学生作文コンクールで、幕別中学校二年生の高橋由佳さんの作品「私のふるさと幕別町」が特別賞に輝きました。このコンクールのテーマは「ふるさと北海道」。二万七千七百八十三点のなかから選ばれたもので、由佳さんのほか幕中二年生の深松まゆみさん、米山由紀美さんも優秀賞を受賞しています。由佳さんには町長賞も贈られています。

全道コンクールで相次いで特別賞を受けた二つの作品を掲載します（いずれも原文のまま）。

●青少年読書感想文全道コンクール特別賞

路傍の石を読んで

幕別小学校六年

井上 敬子



私は、今年の夏休み「路傍の石」を読んで多くの事を感じ考えさせられた。特に感じた事は、主人公を含めた登場人物の生き方である。

しい事、悲しい事にたえ、一生けん命生きていく姿に心を打たれた。こういった吾一少年の半生の間には、色々な人との出会い、また、その人達が、吾一をかげで支えてくれたり、力になってくれたりしている。まず、吾一にとって、忘れてならない人が、次野先生である。

この先生は、すばらしい人だ。吾一に、一番深い影響をあたえている人物だ。特に、すばらしいと思った所は、吾一という名前について、先生の語りである。「吾一」という人間は、たった一人しかいないのだ」という先生の言葉が今も、印象深く心に残っている。

次野先生のこの言葉によって吾一は、人生は希望をもって生きていくという事を、すっかり教えられた。そのため、どんなにつらく悲しい事があっても、希望をもって生きてきたのではないだろうか。そして教師という職業は、本当にすばらしい仕事だと感じた。

次に、吾一にとって一番大切な人である母親だが、貧乏のどん底にあつてよく吾一を立派に育てたなと思った。吾一は、この母親から「たえる」という事をおそわつたのではないだろうか。それに、何事もはね返す吾一の気性、これは母親の影響だろうと思う。それだけに、母親の死という深い悲しみを受けて吾一は、どんな気持ちだったのだろうか。私なら、貧乏、奉公の苦しさ、その上に母親の死という三重のショックがあつたら「生きる」という事に絶望を感じ母親のあとを思い、死んでいるかもしれない。そんな、耐えきれないほどの、たくさんの苦しみの中から、強く生きぬいた吾一は、本当にすばらしい精神力の持ち主だと思った。

また、こういった吾一の半生の間に、かげの力となつてくれた人に「いなば屋のおじさん」がいる。吾一にとっては、本を読む事を教えてくれた、大切な人である。本を読むという事によって、吾一は色々な事を知り、それをどんどん吸収していき、吾一の人生に、大きな影響をあたえ、立派な人間として成長していくのである。私も本を読む事の大切さを、今さらのように感じた。又、下宿先の黒田の言つた「かんなん、なんじを玉にす」、人は、苦勞して初めて立派な人間になるという言葉が、深く私の心に刻まれている。

全文を読み終わつて、私は静かに、この本の題名「路傍の石」という意味について考えてみた。作者は、人の目にもふれない、道ばたの名もない小さな石のような、人々から忘れられた人間でも、ひたすら生きているのだという事を読者にわかつてもらいたかつたのではないだろうか。こう私は感じた。この本を読んで多くの事を学びとる事ができた。

年金は 請求しないと 受けられません

厚生年金保険や船員保険の老齢年金、障害年金、遺族年金などの給付は、加入期間、年齢、廃疾の程度、死亡などの一定の要件を満たしている場合に支給されます。

ところが、これらの年金は、その年金を受けられる要件に該当したとしても、社会保険庁では、その事実や住所の確認が困難であるため、自動的に支給されるものではありません。年金を受けることができない人からの裁定請求に基づいて年金が決定されることになっています。

請求が遅れると添付資料を整えることが困難になったり、時効により年金の支払いを受けることができなくなることがあります。

したがって、年金を受けることができるようになったときには、一日も早く裁定請求をおこなう必要があります。

とくに次のような請求年金の場合には、加入期間や年齢、廃疾の程度などの要件のほかに、裁定請求をすることも要件の一つとなっております。したがって社会保険事務所で裁定請求書

私のふるさと幕別町

幕別中学校二年

高橋 由佳



私の住む幕別町は、人口一九、六九八人という小さな町です。この町には公害もなく、自然がいっぱいで、とても住みよい町だと思います。

この町の産業の中心は農業です。夏には青々とした空の下で、緑の葉が元気に成長し、秋には農業を営む人が汗を流して取り入れている。そんな姿を見るのは、こういう町でしか見ることができない

のではありませんか。

東京のように、自分の家の庭さへも、充分にもてない近代都市では、このような傾向を見ることはできないと思うのです。私は、つくづく、この町に生まれて、よかったと思います。

都会の人が、この町を、田舎町とばかりにしても、私は、田舎だからこそ、ふるさとと言えるのではないかと思います。私は、田舎の

ふるさとが好きです。昔のままの田舎町が大好きです。

現代のように、発展が進むにつれて、田舎も都市化が進み、緑がだんだん無くなっていく。この町は、そうならなくてもいいと思います。私の、たった一つのふるさとなのです。一生、この緑の町で、のびのびと過ごしたいと思つたこともあります。今も、この町をはなれたくありません。

秋に行われるお祭りには、おみこしをかつぐ威勢のよい声が聞こえ、夜店で買った、わた菓子を手にとり、人のあままりないこの町を、のんびり歩くことができることは幸せです。私はこの幕別が大好きです。人間ばかりの都市よりも

んびりとした、この町が好きです。しかし、今、この町を見まわしてみますと、直すべきことが沢山あります。

例えば、道路のすみに、ゴミくずや、たばこの吸いがらなどが落ちていたりします。みんなが注意し合えば、もつともつと住みよい町になると思います。

もう一つは、せつかく歩道に植えた草木が、おられているのを見ます。せつかく植えた花なのですから、大切にしたいのです。いつまでも、きれいな町で、心に残る町であってほしいのです。私の生まれ育ったこの幕別は、いつまでも私のふるさと、いつまでも私の父であり、また母なのです。

そのためには、まず自分の血圧を知らなくてはなりません。血圧は運動、緊張、体の具合、寒さ、その他いろいろの原因で変化します。何回か測ってみて、自分の本当の血圧を覚えておきましょう。日本人は平均して一日十五グラムの塩を摂取しているといわれています。これは塩中毒の一手手前の摂取量ですので、半分にする必要があります。特に、血圧が最高一六〇、最低九五以上の人は、塩分のとりすぎに注意したいものです。

なお、正常血圧は、最高一四〇未満、最低九十以上（世界保健機構血圧判定より）となっています。

を受付けた日が、受給権発生の日となり、さかのぼって支給されませんので、請求が遅れるとそれだけ年金の支払いが少なくなります。

■六十歳以上六十五歳未満の被保険者で、標準報酬月額が十三万四千円以下である方が請求する老齢年金・通算老齢年金

■老齢年金を受けることができる年齢には達していないが、加入期間は満たしており、かつ障害年金を受けられる程度の廃疾の状態にある方が請求する老齢年金

■廃疾認定日には障害年金を受けられる程度の廃疾の状態になかったが、初診日から五年以内に廃疾の状態が悪化し、障害年金を受けられる程度になった方が請求する障害年金

裁定請求書の提出先は、現在勤務している事業所（勤務していないときは、最後に勤務していた事業所）を管理する社会保険事務所です。

ただし、すでに退職して老齢年金や障害年金などを受けている方が亡くなられたことにより遺族年金を請求する場合は、その請求される方の住所地、幕別の場合は帯広社会保険事務所です。

なお、年金について不明の方は役場民生課年金係におたずねください。

まだ若いからと油断は禁物

2月1日から7日は成人病予防週間

人は血管とともに老いる

二月一日から七日までは成人病予防週間です。ふだん健康に自信をお持ちのあなたも、この機会に

健康診断を受けましょう。自分の健康状態をいつもつかんでおく、これが病気の第一です。

四十一万九千三百六十五人——昭和五十二年一年間で、これだけ多くの方が成人病で亡くなっています。総死亡者六十九万七十四人のうち、なんと六〇・七％を占めています。亡くなった方のうち、四人に一人が脳卒中、五人に一人がガン、六・五人に一人が心臓病となっています。

日本人の寿命は、世界でも一、二位を争うまでに延びましたが、一方で成人病がその「魔の手」を広げています。

人は血管とともに老いる、とい

成人病予防は

血圧管理から

だれでもできる、そして一番大切な成人病の予防は、血圧の管理です。

十勝大会で 室内サッカー 優勝と準優勝

幕別FC・エスカルゴ

十二月十七日、帯広市総合体育館で行われた全十勝室内サッカー選手権大会で、幕別から参加したチームが一般Bブロックの優勝と準優勝を勝ち取りました。

この栄冠を手にしたのは、幕別FCエスカルゴ（主将・佐野修さん）。三十チームが参加したこの大会で、エスカルゴはチームを二つに分けて参加し、両方とも順調に勝ち進み決勝戦は幕別同士の戦いとなりました。ふだんは同じチームとして試合をしているためか、多少やりすぎだったとか…。



夜遅くまで練習の余念のない幕別FC・エスカルゴ

少しずつ愛好者がふえています。練習は毎週水曜日、午後七時から幕別小学校の体育館で行っています。初心者の方もぜひどうぞ、とのことですので興味のある方は一度練習をのぞいてみてください。佐野さんに、幕別の室内サッカーについて聞いてみました。「悩みは、力いっぱいボールを蹴れる体育施設がないこと。総合体育館を建てる時には、実際に使う側の意見を取り入れてほしいと思います」

今年の大会でも、また優勝しようとして、練習にも一段と熱が入っています。



子供といっしょに カッティング画に挑戦

ろばたの会

ろばたの会（母と女教師の会・大竹節子会長）では、発足以来、福祉施設の慰問など幅広い活動をすすめています。一月九日に町民会館に集合し、子供たちと一緒にカッティング画に挑戦しました。カッティング画とは、下絵に好みのブッシュカラーを貼る「描画はり絵」で、参加した約五十名の親子は、はじめての挑戦でしたが何れも素晴らしいカッティング画を作りあげ、大変満足そうでした。

カッティング画に取り組む皆さん



工作大会で 手作りの味を満喫

地域子供会育成連絡協議会

子供工作大会が十二月二十四日に町民会館と札内福祉センターを会場に、多くの小学生と父母が参加して開催されました（写真）。

この工作大会は、幕別および札内の地域子供会育成連絡協議会（幕別・坂下庄蔵会長、札内・外館繁司会長）が主催したものです。

工作大会の狙いは、すっかり影をひそめた手作りの味を、親子ともども楽しんでいただくというもので、民間の指導者と学校の先生が講師となって、タコ、首ふり人形、七宝焼などに取り組み、楽しい一日を過ごしました。

幕別発祥の地の 歴史を編さん

明野地区

町には幕別町史と先頃発刊された幕別農協三十年史がありますが、これら町史、幕別農協史ともスペースの関係から各地区の歴史まで手がまわらないのが実情。このため我が地区の歴史をと、明野地区で記念誌の編さんがすすめられています。

明野地区は幕別発祥の地である武山市街も含まれるため編さん作業は困難をきわめました。二月中旬に発刊のメドもつき、予定通り二月十八日に記念碑の除幕式と祝賀会を開催することになっています。

記念誌編さん作業中の皆さん



資源回収事例

資源回収運動は公区の活動費を生み出すとともに、親睦や連帯にも大きな役割を持っています。現在実施している公区の事例をお知らせください。広報紙上でご紹介します。

公区の行事に益金を環元

緑町第三公区

緑町第三公区（西田潔公区長）

います。

は昭和五十二年六月に緑町第一公区から分離した新しい公区ですが各家庭内外の整理・整頓とあわせて資源を有効に活用しようと、分離した年の八月から回収をはじめました。

初年度は八月から十一月まで四回、五十三年は五月から月一回実施していますが、回収方法は指定した日時に各自が持参し、担当係がこれを分離して業者に引渡して

回収品は各種のビン類、新聞、雑誌、ダンボール、鉄クズのほか使わない家具や電気器具も回収の対象としています。

比較的新しい公区のため、重点目標は親睦を第一とし、年中行事として野遊会、七夕祭、盆踊りなどを開催しており、これら行事に資源回収で得たお金が重要な役割をはたしています。

なお、西田公区長は、今後の反

ボランティア活動にも協力

新北町婦人部

札内新北町（亀水正作公区長）の資源回収は、婦人部が主体となって実施しています。

新北町婦人部（吉村ミエ部長）では毎月一回、婦人学級を開き、電気器具の直し方、料理講習会などを開催していますが、これに必要な経費は、資源回収で得たお金をあてています。

回収の方法は、婦人部員の家庭に資源がたまりますと、その都度十一班にわかれていた班長さんのところに持参します。班長さんは

同じ公区内にいる回収業者に連絡し引き取っていただく方式をとっており、この資源回収は昭和五十一年の春からはじめています。

回収する品物は他の公区と同様ですが、新北町婦人部ではボランティア活動に協力するため古タオル、シーツなど繊維類も回収しているのが特徴となっています。

なお、亀水公区長は「全町的には至難と思うが、本町、札内、糠内のブロック別に、例えば子供の自転車、スケート、スキーなどが



少なくなつて使われなくなったのを、必要な方に払い下げるか交換会などを開催してはどうでしょうか」と語っていました。

「ゆずります」

●セミダブルベット（程度）
・良）希望価格は一万円ぐらい

阿部清広（幸町十五番地）
（幕別）④3250

▽要らなくなった品物で、まだ使えるものがみなさんの家庭の隅にたくさん眠っていると思います。そうした品々を有効に生かすために、このコーナーをご利用ください。連絡は役場広報聴係へ。



省として次の点をあげていました。

①回収日時を早目に連絡し徹底させる必要がある ②回収場所は一か所のため増設を検討しなければならぬ。

名譽町民・中島国男さんのブロンズ像建立決まる

昭和二十二年四月に当選以来、連続七期二十八年もの永きにわたって幕別の発展につくした前町長の中島国男さんの功績を顕彰し、等身大のブロンズ像が建立されることになりました。

前町長の中島国男さんは、昭和二十二年に初当選以来、その「街づくり」は高く評価され、また、十勝町村会長、十勝総合開発促進期成会長、北海道町村会副会長の要職を歴任、これらの功績から昭和五十一年春に勲五等双光旭日章を、秋には幕別町名誉町民の称号が贈られています。

なお、十二月十八日に開かれたブロンズ像建立期成会設立総会で正式に建立を決定、一月中に発注し、今年の開町記念日に除幕式を開催することになっています。建立場所は役場前庭の予定。

ガスを使う室内の換気を



火を使うへやには換気設備をしましょう

税の申告と納税が始まります



税務署の窓口は、三月上旬が比較的すいていますので、この時期に相談されると良いでしょう。

贈与税と税金 贈与税は一年間に個人からもらった財産が六十万円を超えるときにかかります。

昭和五十三年分の所得税と贈与税の申告と、納税がはじまります。この申告と納税の期間は、所得税は二月十六日から三月十五日まで、贈与税は二月一日から三月十五日までとなっています。

ただし、結婚生活が二十年以上である夫婦の間でおこなわれる居住用不動産、または居住用不動産を取得するための金銭贈与については、六十万円の基礎控除のほか一千万円が控除されます。

申告書を書くときには、申告書に同封されている「申告書の書き方」などの説明書を参考にしてください。もし、申告書の書き方や所得の計算の仕方などで、不明の点がありましたら、税務署の窓口で遠慮なく、ご相談ください。

●贈与税の速算表

基礎控除後の課税価格	税率	控除額
	%	万円
50万円以下	10	—
70	15	2.5
100	20	6.0
140	25	11.0
200	30	18.0
280	35	28.0
400	40	42.0
550	45	62.0
800	50	89.5
1,300	55	129.5
2,000	60	194.5
3,500	65	294.5
7,000	70	469.5
7,000万円超	75	819.5

2月1日現在で

農業基本調査をおこないます

表紙の説明 途別の養鯉 場では、寒鯉の出荷が盛んにおこなわれています。途別で鯉が飼育されたのは古く、今ではすっかり冬の風物詩となっています。

調査の方法は、農家および協業経営体については調査員が、会社およびその他の農業事業体については役場職員が、それぞれ訪問し調査票の記入を依頼いたします。なお、調査対象と調査事項は次の通りとなっていますので、ご協力ください。

■調査対象

農家および農家以外の農業事業体で、耕種、養畜（家きん含む）のいずれかを営んでいるうち、次の各号の一つに該当する規模のものであること。

- ①経営耕地面積が十アール以上であること。
- ②調査期日前一年間における農業生産物の総販売額が、七万円以上であること。

■調査事項

- ①農家の場合は世帯員の状態、農家以外の農業事業体は、その経営の態様
- ②農業雇用労働状況
- ③土地利用状況
- ④家畜飼養状況
- ⑤農用機械所有状況
- ⑥出かせぎの状況

篤志寄付者のお名前

町へ……

▽大石和也さん（池田町）から地方自治振興資金として二百万円
▽札幌内ソバメ石油株式会社（松島由弥代表取締役）から環境衛生施設整備資金として二十万円、交通安全施設整備資金として十万円
教育委員会へ……
▽幕別ロータリー会から図書購入資金の一部にと七万円
▽藤間流チャリティ舞踊会では図書購入資金の一部にと五万円
▽四季の会からアートフラワー販売の益金を図書購入資金の一部にと一万円
▽札幌内勤労者ソシアルダンスサー

クルから時計四個
十勝愛育園へ……

▽幕別ライオンズクラブから菓子
▽札幌内神社から菓子
▽北海道農協乳業株式会社からチーズ、バター、プリン
▽役場五乱会からオモチャ、みかん、プリン、マ森繁杏子さん（東京）から菓子、オモチャ
▽大森百合子さん（神奈川）からレコード、本、コースター（以上何れもXマスにあたってのプレゼント）

社会福祉協議会へ……

▽大石共也さん（旭町）から母の病氣見舞いを廃して十万円
▽古田茂さん（共栄町）から三十万円
▽藤幸会から十万円
▽高井さよ子さん（相川）から夫の香典返しを廃して三万円
▽匿名の方から千円
▽坂口一治さん（相川）から父が生前お世話になりましたと二万円
▽西田利文さん（途別）から祖母が生前お世話になりましたと五万円
▽坂口一治さん（相川）から父が生前お世話になりましたと三万円（幕別老人クラブへ指定寄付）
▽札幌内民謡友の会から一万円（札幌内老人クラブへ指定寄付）
▽西田利文さん（途別）から三万円（途別老人クラブへ指定寄付）
▽新川公区から一万五千円（明野新川長寿会へ指定寄付）
■訂正 十二月一日号で、松田清一さん（稲志別）から五万円とあるのは二万円につき、つつしんで訂正いたします。